

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号： 32677
 研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2009 ～ 2012
 課題番号： 21530557
 研究課題名（和文） 都市における中間層の変容過程と社会調査：格差社会分析の国際比較のための実証研究
 研究課題名（英文） The Changing Process of Middle Class and Social Research: the Comparative Analysis on the Polarizing Society
 研究代表者
 武田 尚子（TAKEDA NAOKO）
 武蔵大学・社会学部・教授
 研究者番号：30339527

研究成果の概要（和文）：「中間層」概念の形成・変容をめぐる国際比較を行い、イギリスにおけるベンジャミン・シーボーム・ロウントリーの社会調査と社会实践の関連について解明を試みた。また、日本の地域社会における「中間層」の形成・変容過程を調査し、都市空間、都市中間層の形成過程が密接に関連していることなどを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I analysed the relationship between the conception of the Middle Class and social research in the UK based on the material of B. S. Rowntree. I also analysed the changing process of the Middle Class life in some local communities in Japan. I found the close relationship between the life of them and the urban space.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：地域社会学、都市社会学、社会調査、質的調査、貧困研究

1. 研究開始当初の背景

近年、日本社会において、格差問題は一般にも広く議論される社会的争点となった。格差問題は、ひろく行きわたっていた「一億総中流化」という認識が幻想であったのかもしれないという衝撃を与えた。格差拡大は、「中間層」の分解が進行している過程であるといえる。日本人の多くが階層的上昇を達成し、

「総中流」という生活感覚を実感していた社会的背景もあり、学術的にも「中間層」は、「旧中間層」と「新中間層」という区分が一般的であった。

しかし、格差問題によって、改めて「中間層」とは何だったのかが問われるようになった。戦後、「新中間層」の大衆化という状況もあって、「新中間層」以外は「旧中間層」

というカテゴリに入れられた。「旧中間層」のなかみはきわめて多様であったと思われるが、その内実がよく問われないまま、「中小・零細自営業者等」とあいまいに位置づけられてきた。

2. 研究の目的

本研究はこのような状況を鑑み、都市における中間層の変容過程を明らかにし、格差社会分析の国際比較のための実証研究を蓄積することを志した。

「中間層」の概念・内実を再検討し、「中間層」がどのように形成され変容し、分解しつつあるのかを明らかにすることによって、ますます進行すると思われる格差拡大・格差問題の考究に貢献することを目的とし、とくに「旧中間層」に分類されがちであった人々に着目し、「中間層」の概念、内実、分解過程の解明をめざした。

3. 研究の方法

次のような2つの方法で、調査・研究を進めた。(1)「中間層」概念の形成・変容をめぐる国際比較、(2)地域社会における実証的研究

(1)は、「中間層」という概念の形成について、国際比較を可能にするための基礎的研究を行った。「中間層」概念の形成には、社会調査方法も深く関わってきた。これまでなされてきた社会調査に焦点をあて、どのような階層のどのような問題を取り上げてきたのか、社会調査を必要とした社会的背景を探り、「中間層」概念の形成との関連を探った。

(2)は、地域社会（とくに都市社会）における「中間層」の形成・変容過程、活動内容を実証的な調査によって解明した。

4. 研究成果

論文10件、学会発表10件、図書7件。

(1)の「中間層」概念の形成・変容をめぐる国際比較について、次の2点の研究成果が得られた。

① イギリスにおける社会調査と階層分析

にみられる特徴を歴史社会学的視点から分析し、労働者階級に対するまなざしの変容過程を明らかにした。「特集論文：質的調査データのアーカイブと二次分析(1)：イギリスの事例」『社会と調査』第8号、'Ray Pahl's Sociological Career: Fifty Years of Impact', *Sociological Research Online*, 16(3)-11など。

② イギリスにおけるベンジャミン・シーボーム・ロウンリーの社会調査と社会実践の関連について解明を試み、20世紀初頭にイギリスの産業資本家が「リスペクタブル」な労働者階級を育成することに熱心であること、このような労働者階級が20世紀半ば以降にミドルクラスに成長していったことを明らかにした。

また、B. S. ロウンリーの貧困調査の構想のベースには、食品化学の実験に10年間携わり、実証的な数値を扱った経験があること、それが労働者階級の生活文化を視野に入れて、「人間的要因」を重視した「効率性」についての独特の思索へと発展していったことを明らかにした。

さらに、B. S. ロウンリーの第二次ヨーク貧困調査がベヴァリッジ・レポートにどのような貢献をしたのか解明を試み、ベヴァリッジはB. S. ロウンリーの第二次貧困調査の知見に基づき、最低生活費の算定基準を決定し、新たな社会保障体系によって、貧困層と中間層の分化に備えようと構想したことを明らかにした。

(2)の地域社会における「中間層」の形成・変容過程、活動内容の実証的調査について、次の4点の研究成果が得られた。

①日本の地域社会における中間層の形成過程を歴史的に明らかにした。『海の道の三〇

〇年』河出書房新社。

②温泉地における女性のサービス労働に焦点をあて、温泉地における労働市場の形成を歴史社会的に解明し、温泉地の形成・変容の過程を通して、都市的な中間層と貧困層が分化していく契機を明らかにした。『温泉リゾート・スタディーズー箱根・熱海の癒し空間とサービス・ワーク』青弓社。

③東京都心部における中間層女性の社会的活動の意義を明らかにした。「東京の〈冒険遊び場〉と担い手」『季刊 家計経済研究』第 87 号。

④近代東京における軍用地、都市空間、都市中間層の形成過程が密接に関連していることについて、都心部の渋谷・代々木周辺の変化から明らかにした。「近代東京における軍用地と都市空間ー渋谷・代々木周辺の都市基盤の形成ー」『武蔵大学総合研究所紀要』21。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

①武田尚子、「戦間期イギリスにおける「科学的管理」の導入ーロウントリー社における産業心理学の導入と労働インセンティブー」、査読有、『年報 科学・技術・社会』第 19 巻、2010:53-78。

②武田尚子、「宮本常一の西日本社会論ー合理性への関心と村落社会構造の把握ー」『ソシオロジスト』第 12 号、2010 : 1-26。

③武田尚子、「東京の冒険遊び場と担い手ー都市空間とジェンダーの歴史社会学ー」、依頼論文、『季刊 家計経済研究』第 87 号、2010:42-50, 財団法人家計経済研究所。

④武田尚子、「B.S. ロウントリーの田園ビレ

ッジ建設と田園都市運動ーイギリスにおける貧困研究と住宅問題の関連ー」『ソシオロジスト』第 13 号、2011 : 53-78。

⑤武田尚子、「拡大する瀬戸内漁民の世界」、依頼論文、『歴博』第 168 号、2011:7-10、国立歴史民俗博物館。

⑥Crow, Graham & Takeda Naoko, 2011, 'Ray Pahl's Sociological Career: Fifty Years of Impact', (Refereed), *Sociological Research Online*, 16 (3)-11, <<http://www.socresonline.org.uk/16/3/11.html>>

⑦武田尚子、「特集論文 質的調査データのアーカイブと二次分析(1) : イギリスの事例」、依頼論文、『社会と調査』第 8 号、2012:31-37、一般社団法人社会調査協会。

⑧武田尚子、「ロウントリーの都市貧困調査 : 食品化学実験からの出発ー近代イギリスにおける効率性の探求ー」『ソシオロジスト』第 14 号、2012 : 1-34 .

⑨武田尚子、「近代東京における軍用地と都市空間ー渋谷・代々木周辺の都市基盤の形成ー」『武蔵大学総合研究所紀要』第 21 号、2012 : 47-66.

⑩武田尚子、「ロウントリーの第二次ヨーク貧困調査とベヴァリッジ・レポートへの貢献」『ソシオロジスト』第 15 号、2013 : 1-47.

〔学会発表〕(計 10 件)

①武田尚子、「女性たちが作り出す社会的空間ー瀬戸内海離島の社会的基盤ー」、2009 年 5 月 9 日、第 34 回 地域社会学会大会 (岡

山大学)

②TAKEDA, Naoko, "Qualitative Secondary Analysis and Re-using the Original Research Data set of the British Sociological Classic", European Sociological Association 9th Conference, 6th, September, 2009, at Lisbon University,

③武田尚子、「B.S. ロウントリーの社会調査の軌跡と独自性 —都市、労働、福祉、女性への視点と社会的実践の融合—」2009年10月11日、第82回日本社会学会大会（立教大学）

④武田尚子、「イギリスにおける田園都市運動とクエーカー企業経営者集団」2010年9月11日、第28回日本都市社会学会大会（日本大学）

⑤武田尚子、「イギリスの社会福祉・住宅・土地政策とロウントリーの第2次貧困調査—B.S. ロウントリーとロイド・ジョージ、ベヴァリッジの関係から探る」2010年11月7日、第83回日本社会学会大会（名古屋大学）

⑥武田尚子、「近代東京における軍用地と都市空間—渋谷・代々木周辺の都市基盤の形成—」2011年9月7日、第29回日本都市社会学会大会（新潟大学）

⑦武田尚子、「ロウントリーの都市貧困調査：食品化学実験からの出発—近代イギリスにおける効率性の探求—」2011年9月17日、第84回日本社会学会大会（関西大学）

⑧武田尚子、「瀬戸内の島と海の道—拡大する漁民の世界」2012年6月17日、地中海学

会大会シンポジウム（尾道市しまなみ交流館）

⑨武田尚子、「戦間期イギリスにおける都市社会調査の展開と制度化」2012年9月8日、第30回日本都市社会学会大会（立教大学）

⑩武田尚子、「ナショナル・イベントと近代都市空間——大正期における明治神宮造営と渋谷・代々木周辺の変容——」2012年11月3日、第85回日本社会学会大会（札幌学院大学）

〔図書〕（計 7件）

①武田尚子、ハーベスト社、『質的調査データの2次分析—イギリスの格差拡大プロセスの分析視角』、2009.

②武田尚子、御茶の水書房、『瀬戸内海離島社会の変容—「産業の時間」と「むらの時間」のコンフリクト』、2010.

③武田尚子、中央公論新社、『チョコレートの世界史—近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石—』、2010.

④武田尚子、河出書房新社、『海の道の三〇〇年—近現代日本の縮図 瀬戸内海』、2011.

⑤武田尚子・文貞実、青弓社、『温泉リゾート・スタディーズ—箱根・熱海の癒し空間とサービス・ワーク』、2010.

⑥武田尚子、古今書院、「産業開発と排除される漁業者」、玉野和志・浅川達人編『東京大都市圏の空間形成とコミュニティ』、2009:117-143.

⑦武田尚子、放送大学教育振興会、「8章 近代の都市化と工業地域の形成：月島の出現」
「9章 住商工地域の生活世界と文化的資源：もんじゃの進化」 「10章 都市再開発とローカル・アイデンティティの変容：もんじゃの街」、森岡清志編『都市社会の社会学』、2012:107-150.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武田尚子 (TAKEDA NAOKO)
武蔵大学社会学部・教授

研究者番号：30339527